

平成22年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

琉球大学附属図書館 情報サービス課
情報サービス企画係
古謝 久美子

このたび、平成22年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、アメリカのハワイ大学マノア校のハミルトン図書館及びシンクレア図書館等を訪問し調査研究を行ったので、以下のとおり報告する。

1. 訪問期間

平成23年1月31日(月)～2月3日(木)

2. 訪問先 / 担当者(訪問先は全てハワイ大学マノア校内)

- (1) Hamilton Library / Ms. Tokiko Y. Bazzell, Ms. Paula T. Mochida, Mr. Alan Grosenheider, Mr. Allen J. Riedy, Ms. Bronwen Solyom, Ms. Vickie Kaye Lebbin, Ms. Beth Tillinghast, Mr. Daniel Ishimitsu,
- (2) Sinclair Library / Mr. Gregg S. Geary, Ms. Melissa Arakawa
- (3) Center for Okinawan studies / Dr. Joyce N. Chinen, Ms. Lynette K. Teruya
- (4) Center for Japanese Studies / Dr. Robert N. Huey, Dr. Gay Michiko Satsuma
- (5) Library and Information Science Program / Dr. Noriko Asato, Dr. Andrew B. Wertheimer

3. 調査研究内容

今回の訪問では、ハワイ大学マノア校内のハミルトン図書館等のライブラリアン、同大で沖縄や日本研究を行っているセンターの教員等から教員と図書館との連携についてインタビュー、意見交換を中心に調査を行った。その他、シンクレア図書館においても、ラーニング・コモンズ、授業支援等についてインタビューを行った。

また、NCC(北米日本研究資料調整協議会)等での活動と図書館の研究支援についても、同大学のアジアコレクション担当者から情報収集を行った。

4. 調査研究の成果

ハワイ大学では、2008年に沖縄研究センターが設置され、日本コレクションのライブラリアンと教員が連携して、沖縄コレクションの公開等に努めていた。ハミルトン図書館内で行ったインタビューや意見交換の中で、ライブラリアンと教員が気軽に話し合いができる環境が構築されており、目的を共有している印象を受けた。琉球大学においても、昨年度国際沖縄研究所が設置され、今後の図書館との連携について検討していく上で、1つのモデルとして大変参考となった。また、これら図書館が行う様々な支援や事業を推進するために、インターンシップを活用するなど、人材の活用についても興味深い事例を聞くことができた。シンクレア図書館においては、授業支援を含む学生支援を行うためのセンターが設置され、それらの運営をライブラリアンと学生スタッフが中心となって進めており、館内にあるラーニング・コモンズとうまく連携しており、活気ある雰囲気を感じた。

学外機関との連携については、NCC(北米日本研究資料調整協議会)やAAS(全米アジア学会)での活動について話を聞き、どちらにおいても、ライブラリアンやライブラリアン以外のメンバーが共同で問題解決等を図る姿勢が感じられ、有意義な内容であった。

今回の訪問はハワイ大学マノア校内のみであったが、図書館の様々な部署の担当者や教員へのインタビュー、意見交換は大変充実し、貴重な経験となった。